



ローマの休日

柄内忠男

4月21日は、ローマの建国祭である。すべてが休みなので、Y氏と2人でバラティノの丘にスケッチに出かけた。

ホテルからローマ駅が近いので地下鉄に乗る。乗りものは日本のように混んでいない。行く先さえ知っていれば路線が単純なので案外たやすく乗れる。パリでもホテルが駅の傍であったので、セーナ河畔からも地下鉄を利用できた。澄みきった空に擦々と照り輝くローマの太陽は、休日に恵みをあたえてくれているようである。風もなく、バラティノは長閑である。モンテ（丘）は、40位程の高さで展望がきく。フォロ・ローマの宮殿の遺跡は近く、遠くにほ寺院も見える。

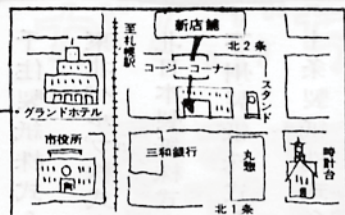
古代ローマは、ロムルスとレムスによって紀元753年にローマを築いた日を建国祭としている。ロムルスとレムスは牝のおおかみに河から助けあげられ、乳を飲んで育てられたという伝説がある。これをモチーフにした彫刻がローマ建国の象徴としてフォロ・ローマの柱の上に据えられている。

古い石畳の路を歩いていると、自分がまるで遠い古代の人間になってしまったような錯覚すらおこる。不思議な感じである。ここは地形に変化があり、見とおしがよく、壊れた建物も面白い。右を向いても、左を

向いても描きさえすればそれが絵になり、構図は自らでき上がる。千年以上もたった黄土色の建造物に、春の日射しをうけた若葉の緑は美しい。静と動のハーモニーを生み出している。ベニスで買ったスケッチ・ブックに夢中に描きながらいるうちに余白はすっかりなくなった。長時間無心で写生したあとの快い満足感にひたりながら私は丘を下った。

ふと、道路の傍に、水呑み場を見つけた私は急ぎ近寄った。数人の人がライオンの口から流れ出る水をのんでいる。社交的で積極的なイタリアの娘が、水を掌にうけて私の目の前に差し出した。両脇に画材を抱えているために、深くかがみようのない私を見てのことだった。娘の好意に私は無言で従った。続けさまに水を呑みだした。喉が乾いていたのでとてもうまい。5杯目に、幸いグラッツェが思い浮かんだ。水が喉を通り過ぎたとたん、グラッツェを連発した。3人の女性は声をあげて笑った。意志の通じた時の、あの不思議な感情が一度に笑いとなって爆発した。あなたは日本人ですね、と尋ねる。イエースの一言は、彼女達に豊かなふくらみを感じさせた。

さようなら。さようなら。何度も手を振って別れた。思い出にこのローマの休日であった。



各種額縁
と
洋画材料

株式会社

松山額縁店

本社・第一工場・南8西1 TEL 512884
販売部・卸部・北1西3 販 246726 郵 252679
第二工場・北11東3